

修士課程では、鍼灸医学分野における研究能力と高度な専門的鍼灸診療を実践するために必要な能力の修得を目的とする。博士後期課程では、鍼灸医学分野の研究者として自立して研究活動を行うことができるとともにその基礎となる豊かな学識と学際的な視野を身につけることを目的にしている。

これらの目的を達成するために、(1)研究者としての倫理観と教養、(2)鍼灸医学研究に関する十分な知識と技能、(3)患者の苦痛に共感し、医療の現場で協働できる知識と高度な専門的診療技術を養い、鍼灸医学の発展と国際社会に貢献できる人材養成を目標とした教育課程を編成している。

1. 表現・態度・人間性

(1) 研究、医療関連の講義をとおして、研究者としての教養・態度・倫理観を養う。

(2) 医療関連の講義・鍼灸センターならびに附属病院での診療を通じて、高度な医療人として思いやりの心と真摯な態度で治療に取り組む心構えや姿勢を養う。

2. 知識・理解・判断・技能

(1) 修士課程では、形態学、機能学、分子免疫学に関する講義をとおして基礎的な研究能力を身につけた上で、専攻分野における講義、特別演習、特別研究をとおして、鍼灸医学分野における研究能力の向上を図る。

(2) 博士後期課程では、専攻分野において独力で研究できる能力を培う。

(3) 特別演習における発表やティーチングアシスタント制度をとおして、調査・研究内容を第三者に伝える技能を身につけ、鍼灸医学教育者に必要な能力を養う。

(4) 鍼灸臨床においては、高度な専門性の修得を図るために、関連施設において徹底した実地臨床を行うとともに、それらに係る重要な項目について調査・発表・討論の形式をとおして知識と臨床との一体化を図る。

(5) 海外の論文の講読や国際学会への参加・発表等をとおして、医療・教育・研究活動における国際的な視野を養う。

3. 思考・意欲・関心

(1) 鍼灸医学研究の拡大と進歩のために、国内外の最新の医学情報に関心を持ち、必要な情報を収集できる知識と技術を学ぶ。

(2) 患者にとって有益な情報とエビデンスに基づいた診療を提供するために、国内外の最新の医学情報に関心を持ち、必要な情報を収集できる知識と技術を学ぶ。

(3) 研究者、医療人として自ら考え対応していくための問題解決力を養うとともに、生涯学習を実践するための方法を学ぶ。